

平成26年度下水道事業決算の概要

1. 決算の概要

歳入	24億6,358万円	A
歳出	24億5,816万円	B
歳入歳出差引額	542万円	A-B

平成26年度下水道事業特別会計決算額は、歳入が24億6,358万円、歳出が24億5,816万円であり歳入歳出差引額は542万円と黒字となりましたが、この全額が平成27年度への繰越事業に充てる財源として繰り越すため、実質収支は0円となりました。

(1) 主な歳入の内容

- ・事業収入（下水道使用料等）は、6億4,211万円と前年度と比較して47万円の増加となり、概ね横ばいでありました。
- ・建設事業の減少に伴い、国庫支出金（国からの補助金）が1億3,486万円と、前年度と比較して、6,606万円の減少、市債（借入金）が7億6,252万円と、前年度と比較して、1億4,868万円の減少、繰入金（一般会計からの補助金）においても、8億2,995万円と、前年度と比較して、5,284万円の減少となりました。

(2) 主な歳出の内容

- ・管理費（施設の維持管理費）は、流域下水道管理運営費負担金の算出根拠となる計画汚水量の見直し等により、5億5,361万円と、前年度と比較して6,374万円の減少となりました。
- ・建設費（施設の建設改良費）は、事業の減少により4億5,120万円と、前年度と比較して2億5,059万円の減少となりました。
- ・公債費（借入金の元利金返済）は、返済元金の増加により、14億4,418万円と前年度と比較して6,338万円の増加となりました。

(3) 主な事業の内容

- ・公共下水道事業では、片山津処理区として打越町、高塚町ほか、大聖寺川処理区として大聖寺上福田町（松島町）ほかで管渠等の整備を進めました。
- ・農業集落排水施設事業では、平成25年度に三木地区において国から採択を受けたことにより、測量、調査及び全体設計を行いました。

2. 歳入・歳出決算額の内訳

